

平成25年度漁業士認定事業

水産海洋技術センター 牧野清人

1. 漁業士認定及び審査状況

漁業士制度は、地域漁業振興の中核的漁業者を育成する目的で昭和61年度から全国一斉にスタートした。本県も昭和61年度には6名の漁業士が認定されて以来、平成25年4月現在で49名となっている。その内訳は、名誉指導漁業士4名、指導漁業士29名、青年漁業士16名であります。平成25年12月26日に県庁において平成25年度漁業士認定審査会を開催、2漁協、2市村より推薦を受け、11月27日、28日に青年漁業士養成講座を受講した青年漁業士候補3名について審査を行い、3名全員を認定した。

2. 平成25年度認定漁業士紹介

●青年漁業士（伊平屋漁協）

上原慎市（うえはら しんいち）

昭和59年8月4日生（29歳）

平成18年からモズク養殖業、一本釣り、電灯潜り、追込網、集魚灯漁業と多岐にわたる漁業に従事している。現在、漁協の理事を務める他、貝部会や青年部に入るなど積極的な活動を行っており、周囲からの信頼も厚く、若手漁業者の模範となっている。モズク養殖においては県が実施する種苗培養講習会に積極的に参加し、マグロ漁においてはソーシャルネットワークサービスのFaceBookを活用して情報交換、発信を行う他、取扱業者と接触を図り販促活動を行うなど、積極的に知識ならびに技術の向上に努めている。

●青年漁業士（伊良部漁協）

国頭和則（くにがみ かずのり）

昭和49年10月24日生（39歳）

平成10年から実父の船でパヤオ漁業に従事し、1,000万円以上の水揚げがあったが、平成2

4年に自身の漁船を取得して独立した。若手漁業者の中でも先んじて集魚灯漁業を行うなど、新しい漁法に積極的に取り組んでおり、ソデイカ漁や底魚一本釣りに関しても貪欲に漁労技術を習得しようとする姿勢がみられ、若い漁業者のリーダーとしての活躍が期待される。

●青年漁業士（伊良部漁協）

奥浜健二（おくはま けんじ）

昭和50年12月2日（38歳）

平成17年から義父の船でパヤオ漁に従事し、現在も一緒に操業を行い、地元小型船の中でもトップクラスの水揚げがある。近年は漁労において重要な役割を担うようになっている。漁協青年部活動に当初から参加し、運営委員として活動しており、地域漁業を盛り上げるのに欠かせない存在となりつつある。今後、地域の漁業経営向上に寄与し、漁協経営にも関わって行くことが期待される。



第19回青壮年女性漁業者交流大会における漁業士認定証授与

（右から奥浜健二氏、国頭和則氏、上原慎市氏、沖縄県農林水産部増村光広統括官）